



ミライを作れ。 挑戦のあとに伝統がある。

受け継がれ、進化を積み重ねてきた洗練の技術。
これは時を経たことで磨かれてきたわけではない。
“唯一無二”でなければならないという使命感を胸に、
挑戦を続けてきた証に他ならない。
「いま」は先人の挑戦の歴史の延長線にある。
ならば私たちもいま挑戦しよう。
未来をつくるために

国立印刷局

RECRUITING INFO 採用情報

初任給	総合職(大卒程度)	258,700円程度
	一般職(大卒程度)	250,300円程度
	一般職(高卒者)	216,300円程度
	本局採用(大卒・高専専攻科卒)	250,300円程度
	工場採用(大卒・高専専攻科卒)	237,500円程度
	高等専門学校本科卒	226,800円程度
	高等学校卒	213,300円程度
	(令和6年度実績)※東京都特別区に所在する機関に勤務する場合	
昇給	年1回(4月)	
賞与	年2回支給(6月・12月)	
諸手当	扶養手当、住居手当、通勤手当、超過勤務手当など	
勤務時間	7時間45分(1日)	

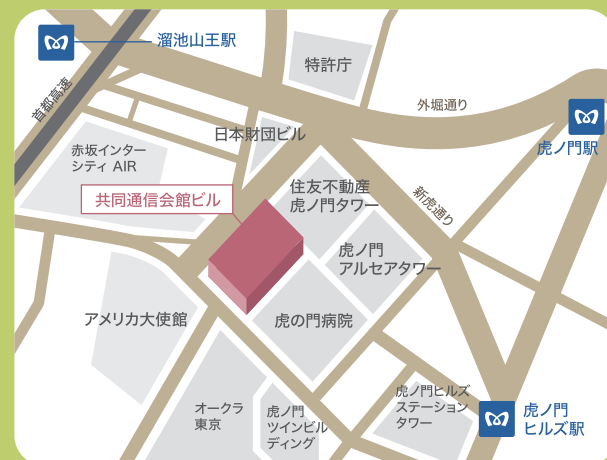
休日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始
休暇	年次有給休暇、病気休暇、特別休暇 (夏季、結婚、出産、忌引、ボランティアなど)
社会保険	財務省共済組合
共済事業	●医療費、出産費、育児休業手当金など支給 ●土地、住宅の購入資金及び臨時の支出に対する貸付、一時保育サービス、介護サービスの利用の助成 ●国家公務員共済組合連合会運営の宿泊施設の組合員価格での利用 ●委託事業の福利厚生サービスによる宿泊施設、スポーツクラブ、飲食店等の会員価格での利用



〒105-8445 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館
<https://www.npb.go.jp/>

採用問い合わせ
本局 採用担当 E-mail jinji-sai@npb.go.jp

アクセス
東京メトロ銀座線／南北線 「溜池山王駅」9番出口徒歩4分
東京メトロ銀座線 「虎ノ門駅」3番出口徒歩6分
東京メトロ日比谷線 「虎ノ門ヒルズ駅」A2番出口徒歩5分



NATIONAL PRINTING BUREAU RECRUIT

NATIONAL PRINTING BUREAU

RECRUIT
MAGAZINE

国立印刷局

Since
1871



ミライを作れ 挑戦の後に伝統がある。

やるべき仕事は、公務なのか、ものづくりなのか。



動画でわかる!
私のリアルな1日

やるべき仕事は、 公務なのか、ものづくりなのか

答えを出すとすれば、それは両方。

つくっているもののすべてが、国民生活に密着した公共性の高い製品。

唯一無二のものづくりに邁進する、国家公務員の働き方がここにある。

社会を支える想いと私たちが目指すべきこと

国立印刷局は、決済システムの中で重要な役割を果たす日本銀行券（お札）や、法令など政府情報の公的な伝達手段である官報をはじめ、旅券（パスポート）、郵便切手、印紙など、国民の皆様の生活に密着した公共性の高い製品や、情報サービスを供給する役割を担っています。前身である大蔵省紙幣司が明治4年（1871年）に創設されて以来、令和3年には創立150年を迎え、この間、高品質の製品を安定的に供給してきました。

日本銀行券は、令和6年7月3日に新しい日本銀行券が発行されることになりました。これにより、偽造抵抗力の一層の強化が図られるとともに、ユニバーサルデザインによる券種毎の識別性が向上することになります。

官報については、社会・経済のIT化に対応し、利用者の利便性を向上させる観点から、インターネットでのサービスを充実させ、その普及に努めています。

また、旅券についても、令和2年2月から発給が開始された新型の2020年旅券は、IC内の個人情報の不正読取り等を防ぐ機能を強化する

など、偽変造防止対策を強化するほか、葛飾北斎の「富嶽三十六景」をデザインに取り入れています。

このほか、郵便切手、印紙・収入証紙など、公共上の見地から高いセキュリティ性や信頼性が必要とされる多くの製品には、私たち国立印刷局の様々な偽造防止技術が使われています。

こうした生活に無くてはならない社会インフラが円滑に機能するためには、まずは私たちが質の高い製品・サービスを提供することが必要です。あわせて、広く国民の皆様に国立印刷局の使命・役割や事業内容を理解してもらうことによって、私たちの業務への信頼感を深めてもらうことも必要不可欠です。

国立印刷局は、こうした両面の努力を尽くし、与えられた使命を確実に果たすことにより、日本経済の更なる発展と、国民生活の安定に貢献していきます。



国立印刷局は「通貨制度の安定」という大きな目的に対して、通貨行政の企画・立案を担う財務省と日本銀行券の発行機関である日本銀行とともに、製造機関としての役割を担っています。



MISSION



海外に渡航する際に身元を証明するために必要な旅券(パスポート)。その高い信頼性は、国際規格に加え、日本独自の高度な偽造防止技術によって支えられています。



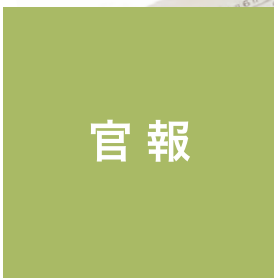
繊細な画線と色彩の豊かさが目を引く郵便切手。その美しさから「小さな芸術品」と呼ばれることも。グラビア印刷と独自の技術が融合した郵便切手は海外からも高く評価されています。

国立印刷局の主な製品



経済活動の基盤となる日本銀行券。その高度な偽造防止技術は、日本銀行券を使う人々の信頼と安心のためにあります。様々な人に使われるものだからこそ、大きな責任感と強い使命感を持って製造しています。

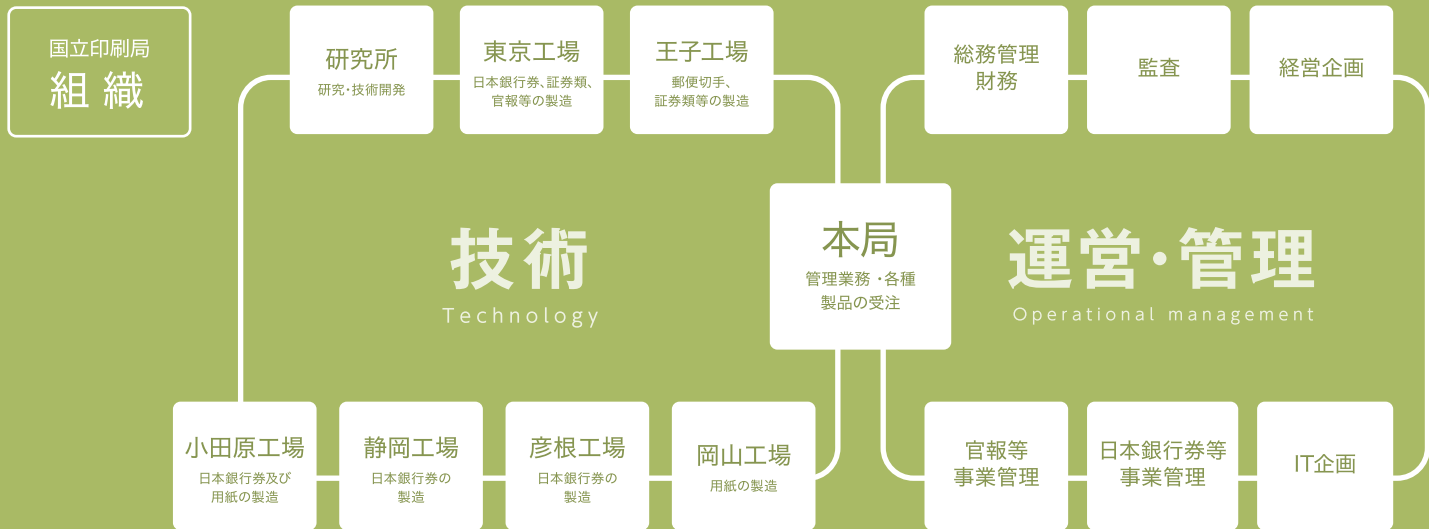
国立印刷局は、日本銀行券(お札)をはじめ、政府から国民へ伝える情報を掲載する官報、海外旅行に欠かせない旅券(パスポート)、郵便切手など、高い公共性を持つさまざまな製品や情報サービスの提供を通じて安心安全な経済・社会活動を支えています。



明治16年に大政官文書局から創刊された官報。法律、政令、条約等、政府情報の公的な伝達手段として内閣府が発行しています。国立印刷局では、官報の編集、印刷及びインターネット配信を行うとともに、その普及に努めています。



官報の情報は紙だけでなく、インターネットでも配信しています。直近90日間の官報情報(本紙、号外、政府調達等)はすべて、無料で閲覧できます。また、有料会員制の「官報情報検索サービス」で日付やキーワードを指定して検索・閲覧することができます。



社会の変化に合わせた、デジタル化への取組。

国立印刷局は、紙媒体への印刷だけでなく、デジタル化への取組にも力を入れています。国民生活を支える情報サービスを提供するため、社会の変化に対応した取組をいくつかご紹介します。

●ベース・レジストリ

現在、日本では社会基盤として参照可能な基本データであり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース「ベース・レジストリ」の整備が進められています。国立印刷局は、法令、会社公告等の情報について正確かつ確実に管理し提供し続けてきた実績を活かし、ベース・レジストリの整備・運用に関してデジタル庁に協力して取り組んでいます。

●次世代旅券

旅券の製造については、現在は全国の旅券事務所で行っている個人情報書込作業を国立印刷局で集中的に行う集中作成方式に変更されることから、外務省と協議を進めつつ、必要となる製造設備やシステムの開発・設置、立ち上げ等に取り組んでいます。

●電子官報

「電子官報」については、官報の発行に関する事項を定めた、官報の発行に関する法律(令和5年法律第85号)が令和5年12月に公布され、法施行後はインターネットを利用して官報を発行(官報の電子化)されます。官報が法制分野のデジタル化の基盤となり、国民の方々がより迅速に法令等の情報にアクセスできるよう取り組んでいます。

●システムの開発・設計・運用

業務の効率化等を目的とした情報システムの適切な整備及び管理に関する取組を進めており、システムの最適化に加えて、運用・管理の内製化にも取り組んでいます。また、近年は工場の製造現場においてもICTの利活用が増えつつあります。さらに、製造工程内で収集される情報(生産、品質データ等)をシステム内で解析、活用、連携を可能とするシステム導入や、製造工程内の補助作業の自動化など工場のDX化の検討を進めています。

国立印刷局だからこそ、体感 できる高度な技術と誇りがある。

一貫製造体制が実現する唯一性と信頼性



詳しく知る▶

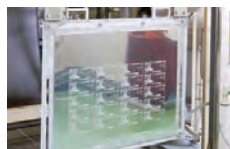


国立印刷局では、印刷だけでなく、用紙やインキといった諸材料の製造を始め、原図や原版の作製、印刷・仕上までを一貫して行っています。これらは徹底した管理体制のもとで行われ、高品質で均質な製品を生み出しています。偽造抵抗力が高く信頼される日本銀行券は、すべての工程において特殊かつ高度な技術が応用され作り出される「ものづくりの結晶」です。

日本銀行券の製造体制



FLOW 01 原図・原版



FLOW 02 製版



FLOW 03 インキ製造



FLOW 04 製紙工程



FLOW 05 印刷工程



FLOW 06 ホログラム貼付



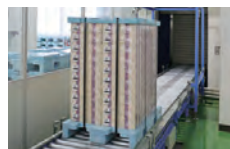
FLOW 07 記番号印刷



FLOW 08 断裁



FLOW 09 検査・仕上



FLOW 10 封包

国民と政府をつなぐ官報

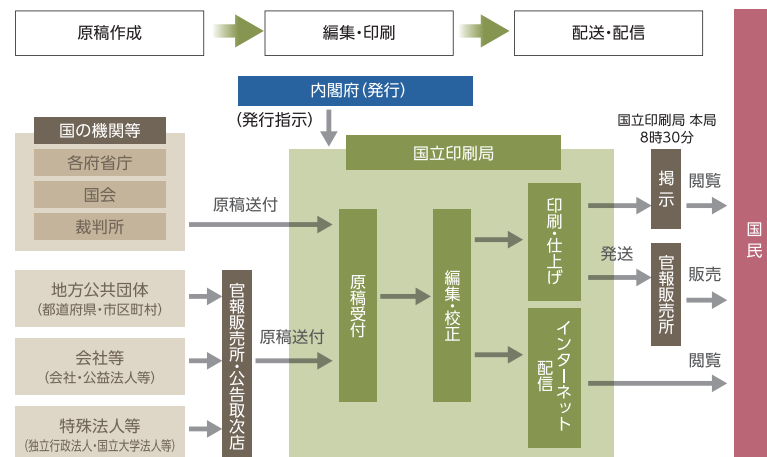


詳しく知る▶



官報は、発行日に国立印刷局及び東京都官報販売所に掲示するほか、インターネットで配信しています。内閣府の要請を受けて製造する特別号外や、非常災害対策本部設置の告示などは即時の製造・掲示を行うなど、国立印刷局では、各府省が円滑に政策を実行できるよう、常に適切かつ確実に対応できる体制を整えています。

官報の原稿が作成され、配送・配信されるまでの流れ



公的印刷物のセキュリティ確保に応用される高度な技術



詳しく知る▶



国立印刷局は、創設以来、偽造防止技術の研究に取り組んでいますが、それらは日本銀行券のみに使われるものではありません。開発された技術は、様々な公的印刷物のセキュリティ確保のために応用され、社会全体の安全性に貢献してきました。神奈川県小田原市にある研究所では、それぞれの技術に特化したスペシャリストを育成し、日々高度な最新技術や知的財産であるライセンス技術の研究に取り組んでいます。世界でもここしかない唯一無二の技術が多数存在しています。



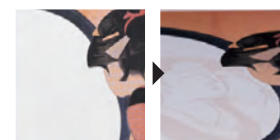
デジタル印刷機

デジタル印刷は、版面を使わないことで環境に配慮できるだけでなく、デジタル技術を活用して出力した印刷物はデジタル情報を最大限に活かした高度な偽造防止技術の付与を可能にします。研究所では実用化に向けて研究を進めています。



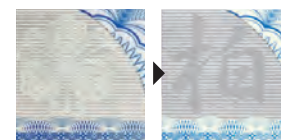
証明書発行システム

社会のデジタル化によって、カラー複合機などを用いて出力した印刷物はデジタル情報を最大限に活かした高度な偽造防止技術の付与を可能にします。研究所では、新たな時代を見据えた証明書発行事業システムの研究を進めています。



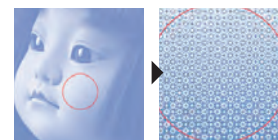
ラインビュー

正面から見ると規則正しい線が見えるのですが、斜めから見ると、別の模様が現れる技術です。この模様は、コピー機やプリンターでは再現できません。また、パソコンなどを利用した偽造に有効な対策となります。



メタリックビュー

見る角度を変えることにより、光沢を持った複数の模様が現れる技術です。コピー機やプリンターではこのような再現はできません。印刷物を傾けて見るだけで効果が起こるので、真偽判別のために特別な道具も一切必要ありません。



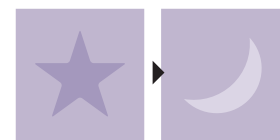
特殊形状スクリーン

特殊な形状の網点により、模様を表現する技術です。ルーペなどで拡大することにより、特殊な形状の網点を確認できますが、コピー機で再現することはできません。



イメージリブル

印刷物に特殊な透明シートを重ね合わせると、見えていた模様が別の模様へと明瞭に変わる技術です。透明シートの重ね合わせ方で、複数の異なる模様を出すことも可能です。これによって、誰でも簡単に真偽判別ができます。



コピーチェック

コピー機で複写すると目では見えにくかった文字や図形が複写したり、まったく別の模様が現れたりする技術で、複写防止策として高い効果を備えています。



イメージスイッチ

赤外線で見ると、まったく見えていなかった文字や図形などの隠し画像が現れる技術です。

高専で培った知識を活かして活躍



研究所総合研究部
R.Kさん
2018年入局
(電子制御学科卒)

世界屈指の技術に自分の力を

研究開発を仕事にしたい!という思いで、国立印刷局への入局を決めました。世界でも屈指の偽造抵抗力を持つという日本銀行券の製造に自分が携わっていることを嬉しく思うとともに、社会基盤を支えるという使命感に誇りを感じています。今の仕事は将来に向けた製品の偽造防止技術を開出する業務に取り組んでおり、難しいことも多いですがその分やりがいも感じます。高専時代に学んだ知識や様々な装置使用の経験は、今の業務にとっても役立っています。



IT企画推進室
システム運用管理グループ
M.Iさん
2009年入局
(電子制御学科卒)

キャッシュレス化は成長のチャンス

私の今の仕事は、業務のインフラ整備と運用のために、調達や導入作業を行うことです。世界的にキャッシュレス化が加速している今、国立印刷局ももう一段階ステップアップするチャンスととらえて様々な検討や取組を行っています。そのためにはIT技術やシステムの知見がとても重要になっています。IT関連技術は進歩が早く、勉強することが尽きることがないため、業務は複雑で大変ですが、高専で情報通信技術を学んでいる方であればすぐにその知識は活かせる職場だと思います。

学生時代に学んだ専門知識を 公共性の高い事業に活かす

高い専門性で設備面から製造を支える

私は学生時代、機械工学を学んでおり、そのスキルを活かせる仕事がしたいと考えていました。国立印刷局は、高い偽造防止技術と均質性を維持した上で大量生産しており、そのことに興味を持ちました。

入局前は、漠然と日本銀行券の印刷に携わるイメージを持っていましたが、実際の配属は設備管理部門。自らが機械を操作するのではなく、「ものづくり」をするための環境を設備面から「つくる」業務を担当しています。もともと設計やメンテナンスにも関心があり、何より公共性の高いものづくりに携われる、今の仕事にとてもやりがいを感じています。

入局して3年目の現在、主な業務内容は設計業務と工事監督業務です。私は建物や空調・給排水設備の機械設備分野を主として担当し、これまでに学んだ熱力学や流体力学などの知識を活かしています。また、機械用AutoCADも学んでいたため、建築用CADにもすぐに慣れることができました。



それぞれの得意を活かせる環境

新規採用時から研修が充実しており、OJTのサポートを受け、実践を交えながら仕事を覚えていきました。設備の仕組みを理解することと、局内外との調整には苦労もありますが、尊敬できる経験豊富な先輩方がたくさんいるので、困ったときにはいつでも相談できます。

私が設計した設備が職員の方々役に立ち「ありがとう」の言葉を聞くと、やって良かったなと嬉しく思います。入局した当初は、設備面の効率ばかり考えていたのですが、工場内のあらゆる方と接する機会が増えるにつれて、使用する側の気持ちに寄り添えるようになったと感じています。また、トラブルが発生したとき、目の前の対応に追われるだけでなく、施設全体の設備を理解することで根本原因を突き止めることができるようになったことに成長を実感しています。

国立印刷局には、公共性の高い製品・サービスを提供するための多種多様な業務があります。皆さんそれぞれが得意なことを活かせるポジションで力を発揮できる環境があると感じています。

S. A

王子工場 生産管理部 設備管理課 設備管理チーム
2021年 入局

動画でわかる!

私のリアルな1日



「紙から電子」への変革期に 官報に携わる責任とやりがい

関係省庁や現場をつないで 官報をつくる

就職活動中は、人が安心して生活できる環境づくりに関わりたいと思っていました。国立印刷局の製品はどれも社会インフラの一部です。自分も社会に貢献できると思い入局を決めました。

入局から2年間は製造工場で官報の印刷に従事しました。その後の2年間は官報や国の予算書などの品質管理業務、製造計画の立案に携わりました。その後本局に異動し、官報総括チームで勤務しています。

現在は、法改正に伴う新設記事の官報掲載に係る関係省庁や製造現場との調整や、官報普及を目的としたイベントの企画、外国における官報の活用状況の調査などを担っています。携わるプロジェクトは関係省庁や製造現場など他部署との連携が必要です。これまでの知見が通用するかチャレンジしたり、さらに新たな知識を取り入れたりできる面白さを感じています。



製造現場での経験を活かしてDXを推進

国家公務員と聞くと「堅い」「気難しい」と思うかもしれませんが、実際には気さくで柔軟な考えを持つ人が多く、上司ともコミュニケーションが取りやすい職場です。

本局に異動し、プロジェクトを担当するようになった際、「あなたが製造部門に指示する立場だから、製造についても分からない部分は、些細なことでも現場にしっかりヒアリングしながら進めていこう。」と上司からアドバイスを受けたのが印象的でした。関係省庁と製造現場が連携できるよう打合せを重ね、やり切ったとき、自分の成長を実感でき、入局当初からの現場経験、学びが結集した喜びがありました。

官報は今、「紙から電子」へと変化するプロセスにあります。歴史的な転換期に立ち会えることを嬉しく思いますし、果たさなければならない使命の重さに身の引き締まる思いです。情報サービスを社会へ提供していく上でDXを推進するためにはデジタルに長けた人材も必要で、私も勉強中です。

国立印刷局は日本銀行券の印象が強いかもしれませんが、私は官報事業も国立印刷局の大きな魅力の一つだと思います。変化する社会の基盤づくりに貢献できる官報に皆さんも是非携わってみませんか。

R. K

本局 官報部 官報グループ 官報総括チーム
2018年 入局

動画でわかる!

私のリアルな1日



20年に一度の改刷という使命に 貢献できた誇りとやりがい

「誇れる」「楽しい」仕事を求めて

私は学生の頃から、「誇れる仕事」「楽しいと思う仕事」をしたいと考えていました。そんなとき、国立印刷局に就職した先輩から話を聞く機会があり、高い偽造防止技術を用いた日本銀行券を製造する仕事に、自分が仕事に求める要素が備わっていると感じました。

入局し最初の3年は日本銀行券の用紙の製紙部門のうち、紙料を用紙に加工する抄造工程に作業員として携わりました。その後は同工程の品質管理担当者を経て、現在は製紙部門全体の品質管理を担当しています。

最初に配属された抄造工程では、日本銀行券において重要な偽造防止技術の一つであり、最も印象的な「すき入れ(すかし)」に関する業務に従事しました。製造部門での機械の各種調整方法等、作業工程の全体像を把握できた経験は、現在の業務における実績の分析や改善事項の発案に活かされています。

現在の製紙部門の品質管理業務では、日々の製造実績や改善実験の結果をもとに、安定的な製造を行うため様々な取組を行っています。各部署と連携して取り組んだ実験が円滑に行え、良い結果が得られたときは、大きな達成感があります。



S. T

小田原工場 生産管理部 品質管理課 品質チーム(製紙)
2016年 入局

動画でわかる!

私のリアルな1日



ここにしかない独自技術の 研究開発に携わる醍醐味

製造現場から研究員、そして研究管理へ

大学院では化学工学を専攻していましたが、専攻にとらわれず、人々にとって身近な製品のものづくりに関わりたいと考え就職活動をしました。そんな中、偽造防止技術を活用した日本銀行券など、身近で特殊な製品を製造する国立印刷局に興味を抱きました。実際に入局後は、日本銀行券の印刷だけでなく、色々な製品の製造や、それらに関わる研究開発を行っていることがわかりました。

入局時は日本銀行券の製造工場に勤務し、最初の2年間は製造現場、後半の2年間は品質管理を経験したのち、研究所に異動しました。研究所では当初研究員として製造設備の開発に関わり、現在は研究総括チームで働いています。

研究総括チームは、研究をスムーズに進捗させるために各所と調整することが主な業務です。工場からの依頼業務のマネジメントや、研究所へ新たな装置を導入する手続に関する連絡や相談などを担当しています。研究員が研究しやすい環境を整えるのが私の役割であり、これまでの製造現場や研究員としての経験が、現在の仕事に生きています。



I. Y

研究所 研究管理部 研究管理課 研究総括チーム
2015年 入局

動画でわかる!

私のリアルな1日



伝統を大切にしながら新しい 価値を生み出す

偽造防止技術の中には国立印刷局でしか扱っていない特殊な技術もあります。その技術をどのような製品に組み込んでいくかを考えたり、製品のデザイン性の高さに触れたりできることに、仕事の面白さがあると思います。

しかし、いかに優れた技術があっても、やはり大切なのは人と人の繋がりで。なぜなら、日本銀行券をはじめとした製造業務は、基本的にチームで行われるからです。メンバーが高品質なものをつくりたいというプロ意識と責任感、得意分野を持っており、各自の経験やアイデアがうまく噛み合ったときに、滞っていた問題が解決されていくと考えます。私自身、頼りにされたり感謝されたり、自身の経験をチームの仕事に役立てられた際、大きなやりがいや成長を感じています。

現在の日本社会は、少子高齢化やデジタル化など大きな変革期を迎えており、国立印刷局は変化に対応し、新たな事業分野に挑戦しています。これまで培ってきた伝統や技術を大切にしながらも、既存概念を超えて新しい価値を生み出したいという方と、是非一緒に働きたいと思っています!

Research
Management



一世一代の大プロジェクト！

新しい 日本銀行券「開発秘話」



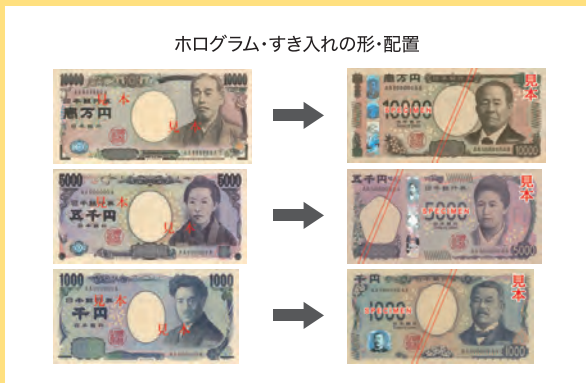
20年前から開始した「プロジェクト」

M.N: 2019年(平成31年)に日本銀行券のデザイン刷新(改刷)が発表されましたが、実はその時からプロジェクトがスタートした訳ではありません。今回の改刷に向けた長期的な研究開発については約20年前の改刷直後から進めてきたものです。新たな偽造防止技術を盛り込み、偽造抵抗力の高い日本銀行券を、安定的に量産できるよう、私たちは実製造を想定した試作品を何度も作製し、検証を積み重ねてきました。

M.T: 新しい日本銀行券には、カラーコピー機等による偽造対策として、「高精細すき入れ」というすき入りの肖像周辺に緻密な画線の模様を付与した技術を採用しています。また、前回の改刷で初めて採用したホログラムを10年以上の年月をかけてさらに進化させて、新しい日本銀行券には、肖像が立体的に動いて見える「3Dホログラム」を採用しました。ほかにも、目の不自由な方や外国の方でも券種を識別しやすい「ユニバーサルデザイン」を研究し、新しい日本銀行券に反映しました。



Y.N: 券種を識別しやすくするための工夫として、「識別マーク」「ホログラム」「すき入れ」を千円券、五千円券、一万円券でそれぞれ異なる位置に配置するとともに、額面数字の大型化も行いました。



唯一無二の偽造防止技術はどのように生み出されたのか？

M.T: 今回、私は「高精細すき入れ」の技術確立を担当しました。すき入りの再現性等の技術的な知見は蓄積できていたものの、実際に日本銀行券にデザインとして組み込んだときに、「人物」と「高精細すき入れ」のバランスが取りにくかったですね。具体的にいうと、新しい偽造防止技術を強調したい思いはあったのですが、肖像背景の「すき入れ」を目立たせ過ぎると「人物」が沈んだように見えるという、トレードオフの関係があることが分かったのです。そこで1年半かけて20回以上の実験を重ねて修正することで、最適なバランスを見出すことができました。また、日本銀行券の偽造防止技術は単に「採用」できれば良いのではなく、今後20年に渡る量産に耐えうる技術として確立する必要があるため、大変苦労しました。



M.N: 私が担った重要な役割の一つに、ユニバーサルデザインの実現があります。ユニバーサルデザインとは、性別、年齢、国籍、障がいの有無等に関わりなく、どんな人にとっても使いやすいデザインのことです。

今回の改刷では、千円券、五千円券、一万円券ですき入りの位置を大きく変えました。これにより、視力の弱い方でも、デザインの違いにより券種を識別しやすくなります。その他にもつるつるとした手触りのホログラムの位置を券種ごとに変更し、触覚から識別できるように工夫しました。

さらに、これまで額面の表記は「壹万円」など、漢数字のサイズが大きく、「10000」といったアラビア数字は小さかったのですが、今回のデザインではアラビア数字を大きく表示することにしました。これにより日本を訪れる外国の方にも識別が容易になりました。

前回の改刷から20年を経て取り巻く環境は変化しており、誰にでも親しまれる日本銀行券のデザインにする必要があります。こういったデザインを券面に導入するにあたって立ちはだかったのは、偽造防止技術との両立です。新しい技術を上手く券面に配置して効果が発揮できるように当初のデザインを何度も微修正しながら、試作・検証を繰り返しました。

M.T 本局 銀行券部 研究開発管理グループ 生産技術チーム

実験と確認を繰り返し、新しい日本銀行券づくりに尽力

M.T: 新しい日本銀行券では「動的」かつ「立体的」なホログラムが特徴です。技術確立の初期段階では立体感を重視すると、動きが鈍くなってしまい、逆に動きを重視すると立体感が損なわれるという状況でした。そのため、どのパターンが良いか、選定までに何回も試作を重ねました。

Y.N: 私は、ホログラムを実際に日本銀行券に「貼付(ちょうふ)」する工程の技術確立を担当しました。新しくできあがった3Dホログラムを紙に貼り付ける条件によっては、見栄えが悪くなることもあります。3Dホログラムをどのような条件で貼付すれば最もきれいに見えるのか、試行錯誤を繰り返した結果、最適な貼付条件を見出すことができました。



また、新しい偽造防止技術である3Dホログラムの検査装置の開発においては、実際に大量生産を行っていない段階で、規格内・規格外の様々なパターンを想定し、サンプルを準備することはとても難しく大変苦労しました。

M.N: 前回の改刷からこれまで約20年の間、厳重な秘密管理のもと、さまざまな偽造防止技術の研究開発を行ってきました。当初は有望視されていた技術であっても実態にそぐわなくなったものもあります。

M.T: 取り巻く環境の変化や技術の飛躍的な進歩によって、現在では、古くなった技術として採用しなかった技術もあります。日本銀行券では採用されなくても、国立印刷局で製造している旅券や公的証明書など、別の製品に採用される技術もあります。ですから、偽造防止技術が日本銀行券に採用されなかったからといって、新たな開発の努力が無駄だったとは言えません。次の技術開発に繋がり、旅券など、様々な形で世に出ていきます。

M.N 研究所 研究管理部 研究管理課



国立印刷局にはありとあらゆる人材が集う

M.N: 国立印刷局では、用紙やインキといった諸材料から、印刷機、貼付機等の生産設備まで、幅広く、独自に、研究開発を行っています。未来創造を合言葉に、新たな偽造防止技術、革新的な生産プロセスなどに関する基礎研究や実用化に向けた開発に取り組んでいるところです。工学・化学の専門分野にかかわらず、企画立案や情報収集・分析など、多方面で活躍できる場があります。やる気のある皆様には、ぜひ、研究所や工場の技術開発部門のメンバーとして加わっていただきたいと思います。

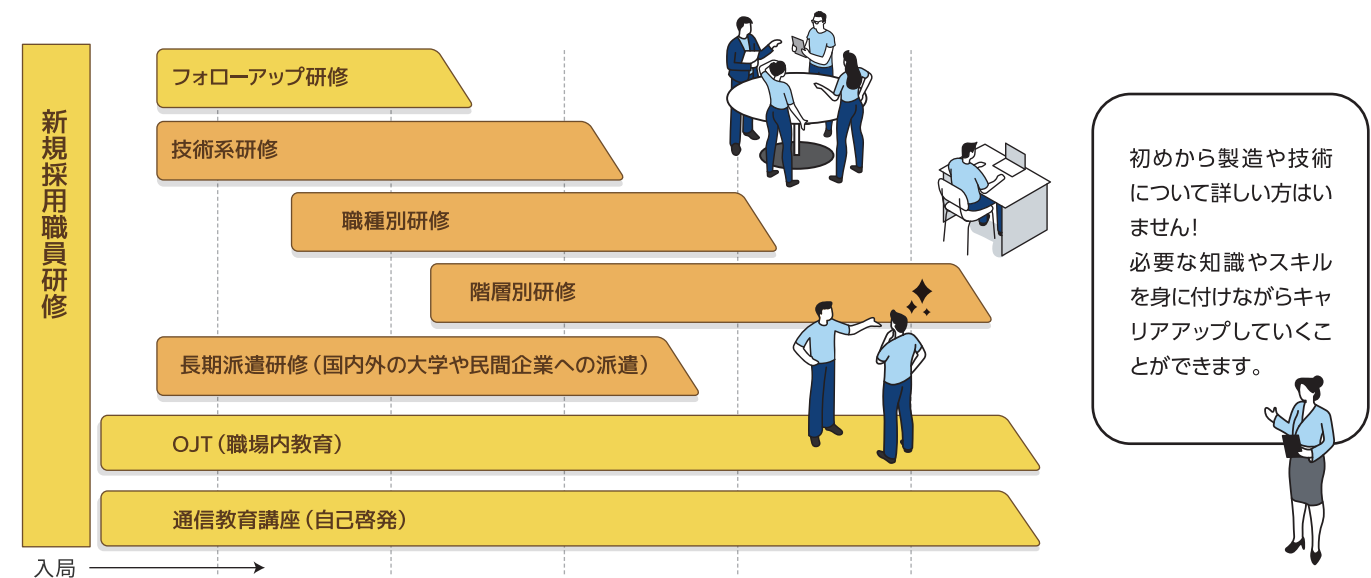
M.T: 国立印刷局の職員は、国民全体への奉仕者、守秘義務が課された国家公務員の身分である一方、ワークライフバランスを充実させ、子育てしやすい職場環境にあると思います。パンデミックや政情不安など、取り巻く社会環境が目まぐるしく変化する中において、安心・安全な環境で、やりがいのある仕事ができることは、大きな魅力と感じています。

Y.N: 国立印刷局は、日本銀行券や旅券の製造を担う国内唯一の機関で、社会基盤を支える重要な使命があります。令和6年7月の新しい日本銀行券の発行により、今回の改刷事業はゴールを迎えますが、同時に、次期改刷に向けて、新たなスタートを切ることになります。近年、国立印刷局では、情報通信技術に関する研究開発にも取り組んでおり、将来に向けて、新たな製品やサービスの提供に向けた挑戦を始めています。自分たちが開発した技術が、国民の誰もが使用する公共性の高いセキュリティ製品に使用されることは、ものづくりに携わる者として、大きな喜びと達成感が得られるものと感じて、引き続き社会や人々に貢献していきたいと思っています。



教育研修制度

EDUCATION & TRAINING SYSTEM



印刷技術や印刷機械について知識がなくても活躍できるのか、と不安に思う方もいるかもしれませんが心配は不要です。職員の組織への貢献と成長をサポートするため、職員の状況に応じた研修を実施し、「自ら考え行動できる人材づくり」を目指しています。入局1年目は、皆さんと比較的年齢の近い職員が新人の指導員となり、マンツーマンで仕事を教えます。仕事や生活面などで疑問や不安に思うことがあれば、指導員や上司に気軽に相談できます。また、製造技術に特化した研修も実施しています。『技術系研修』では、日本銀行券製造に関する基礎から専門的な内容まで学ぶこと

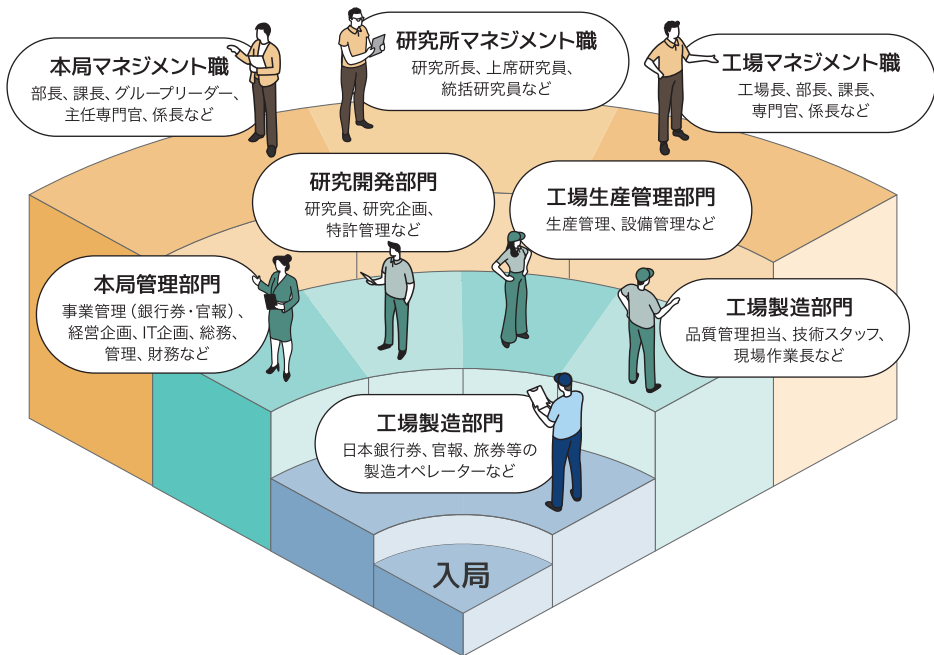
ができます。『職種別研修』では、知的財産や機械設計等、それぞれの業務に必要なとなる研修を行っています。また、デジタル人材の育成を推進しており、WordやExcelの基本的な操作から情報セキュリティやネットワーク構築などの専門知識まで学ぶ機会があります。また、『長期派遣研修』では、1～2年間国内外の大学や民間企業で外部の知見を学ぶこともできます。また、仕事に関する通信講座を開講し、自己啓発をサポートしています。

キャリアパス

CAREER PATH

入局後は、全国6か所にある工場に配属され、まず工場の製造部門の業務に従事します。製造部門で国立印刷局の製品知識や技術を習得し、ものづくりについて学ぶことにより、職員としての基礎を習得していただきます。その後のキャリアは多様な領域に広がっていきます。本局、研究所、工場の各職場には様々な業務があり、入局したらこの仕事しかできないということはありません。本人の希望や適性に応じて一定のジョブローテーションのもと多様な経験を積んでいき、将来的には各職場のマネジメント職として高いリーダーシップを発揮する人材へキャリアアップしていきます。理系出身の職員は、研究職や生産管理など、専門的な知識を活かした業務に携わることがあります。また、国立印刷局の事業と関連する中央省庁等へ2年程度出向し、業務経験を積む職員もいます。

(例 財務省、外務省、内閣府、デジタル庁、金融庁、日本銀行など)



福利厚生

WELFARE BENEFITS

 有給休暇 20日 そのほか 病気休暇、特別休暇 (夏季、結婚、出産、忌引、ボランティア等)	 有給休暇取得率 84% ※2023年度	 育児休業取得率 男性 97% 女性 100% ※2023年度	 1か月あたりの 平均残業時間 月12時間 ※2023年度
 平均勤続年数 22.3年 ※2024年度	 勤務時間 【本局・研究所】 8:30~17:15 【工場】 8:00~16:45 ※職場によって交替制勤務あり	 諸手当 扶養手当・住居手当 通勤手当 超過勤務手当 など	 各種制度 育児休業制度 介護休暇制度 テレワーク制度 フレックス制度 ※1.本局に制度あり ※2.本局・研究所に制度あり

Real voice

国家公務員とはいっても… 入局してわかったリアル

お堅い人が多い イメージだったけど、 実際には、仕事、プライベート 両面で面倒見がよく 優しい人が多い。	保守的な イメージでしたが、 実際はかなり 素早く改革が 行われる組織で 驚いた。	アクティブな 趣味を持った 人が多い 熱量が半端ない。	私の専攻分野は 今の業務に直結していませんが、 考え方など、今まで勉強してきたことが 支えになっています。 学生時代に学んだことは どんな仕事でも活かせる！ と感ずます。
馴染みのない地域での 就職は不安だったけれど、 美味しいもの、自然、レジャー、 方言など、楽しいことが いっぱいだった！	現場は 若手職員が多く、 プライベートでも 仲良くして もらっている。	「お札を印刷している」 だけではない たくさんの仕事があることを知った。	父親として2か月間程の 育児休業を取得。 家族との大切な時間を 作ってもらえ、職場の皆さんの 温かいサポートに 感謝しています。